

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2171900067-00&ServicCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和2年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までは外に出掛ける事も多くありましたが、最近は認知症も進み車椅子の方が多くなり、身体拘束もしなければ危険な方が多くなってきたため、身体拘束を無くすために、職員一丸となり外部の研修も取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者、全職員は利用者を家族の一員として迎え、利用者の意向に沿いながら、叱らず、制止せず安楽な暮らしを支援している。古民家を改修した事業所であり、長年勤務する職員達は家庭的な雰囲気づくりを大切にしている。意見要望を運営に活かせるように家族会を設け、納涼祭と合わせて要望を聞き、又、家族同士の交流の場としている。運営推進会議では地域のメンバーから、認知症カフェへの協力や、災害時への避難体制の協力の助言等、運営に関する意見をもらっている。コロナ禍で外出は出来ないが、中庭で手作りおやつを食べたり、古新聞でエコ袋を作ったりして気分転換や体操をして体力維持に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に引継ぎ、ミーティング等で理念を唱和し、理念の意味についても話し合い、理念を理解し共有している。	朝夕の申し送りやミーティングで理念を唱和し、利用者の尊厳の維持に努めている。管理者は利用者を敬い、尊び、想いを受け止めることを職員に伝え、話し合いを重ねながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グリーンカフェを開催し、地域の方々と今まで以上に交流が日常的なものにできるのではないかと始めた。しかしコロナウイルス感染症の為、現在は中止しているが、落ち着けば再開したい。	利用者一人ひとりに小学生から年賀状が届き、利用者も出して交流をしている。コロナ禍でカフェや他行事は中止しているが、紅葉を見に行く計画をしている。地域の方に野菜をもらったり、草刈をしてもらったりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症には色々な形の症状がある事を、地域の方々にも知って頂きたく「グリーンカフェ」を通して認知症をより理解して頂ける様行っている。現在は野菜や不用になった衣類、タオル等の回収を呼びかけ、又草刈り等も支援して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近ではコロナウイルス感染症について、災害時について等の話し合い、時に役員の方々よりご意見を頂き、サービス向上に活かしている。	緊急事態宣言解除後、夜間に開催している。現状を報告し、利用者の重度化に伴う、災害時避難対応の見直しに協力の声を得ている。「身体拘束をしない」ケアについて、委員会を設置し取り組んでいる現状を説明し多数の意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者、包括センターの方々により、運営推進会議においても率直な厳しい意見交換もあり、協力関係を築くように努めている。	書類提出、事故報告、現状報告や相談等出むくこともあるが、電話やメールでたずねることが多くなっている。運営推進会議開催時に、直接話したり助言を受け良好な関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない事が一番良いことは誰もが承知しているが、利用者様の生命にかかわる危険性があれば、身体拘束も必要である。ご家族から同意書を頂き「身体拘束廃止検討委員会」を作り、運営推進会議において毎回説明をし、少しでも拘束しない時間を多く作って、最終には外す事が出来る様取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を作り職員で話し合っている。ベッドからの転落のリスクに、床にふとんを敷いて対応する等拘束しないケアに取り組んでいる。しかし、昼間車椅子からの転倒にT字ベルト着用をしている。	利用者の人権を守る為に、拘束による弊害を学習してほしい。又拘束廃止に向けた検討経過を記録に残し、職員間での共有と共に家族への説明と理解を求められたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スキルアップ研修を受け、職員全員が理解し、お互いに見過ごすことなくチェックし防止に努めている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を使用されていた方があり、シンポジウムなどに参加し、学ぶ機会も有り、それらを活用し支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明をし、家族、利用者の納得を得る様にしている。不安、疑問点は、いつでも電話でも聞いて頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見、要望を受け入れる体制であり、信頼関係を築き、それらを運営に反映させている。	毎年、納涼祭と合わせて家族会を実施し意見を聞く機会を設けていたが、コロナ禍で中止している。面会時に要望を聞いたり、便りで様子を知らせたりして意見を聞いている。言葉使いについて意見があり、職員間で話し合い、声のトーンなど注意し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話しやすい環境にあり、その都度意見や提案が出来る状況である。	長年勤務者が多く、又、管理者も勤務に入り、職員とも話しやすい関係ができています。備品の故障、ケアの手順等その都度話し合い改善している。勤務希望等も考慮され働きやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況等は把握している。職員の意見などは聞き、出来る限り沿えるように努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ研修は、職員全員受けている。外の研修も受ける機会を設けている。(現在コロナウイルス感染症により見合わせている)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は出来れば機会を作りたいと思うが、なかなか実現できない状況である。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴を知り、職員は話題を多く持ち、その人の不安、要望に耳を傾け、安心できる様に信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めに家族が困っている事等をしっかり聞き、要望等はケアプラン作りに同席して頂き話し合いをし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームだけのサービスはもちろん、他のサービスが必要であれば家族様、主治医、ホーム等で話し合い、その時に必要なサービスを利用する様にしている。現在は訪問看護を受けている方有り。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線でその方の気持ちに寄り添い、昔話をしたり、世間話をしたり、冗談を言ったりと会話をする事にて関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院、外泊など家族の要望に応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	喫茶店や美容院、時には牧師をされていた方(先生)を尋ねて来られお祈りをされる方もあり、関係が途切れない様に努めている。現在はコロナの為出来ていない。	コロナ禍ではあるが、家族とは、別室で感染予防を工夫し短時間の面談をしている。利用者の希望にあわせ電話の取次ぎや手紙の代筆をしている。正月は自宅で家族と過ごす人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が利用者の世話をする。気の合う方を1つのテーブルにする等に努めているが、片方が良ければ片方が悪いと言う事も出てくる。あとは職員が間に入り上手く取り持っている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が他の施設等におみえになれば続けることは出来るが、そうでなければなかなか続けることは難しい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らし方に努めているが、他の方との調和も必要かと思う。	日常団欒の中や、一人になった時等に友人の話し、お金の話し等意向を聴いている。叶えられるよう職員間で共有している。困難な人には選択方式や寄り合い表情等から把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から聞き取ったり、本人から昔の話を聞いたりして把握に努めているが、個人情報等の事も有り、どこまで立ち入ってよいのか問題もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その時一人ひとりの心身状態に応じ、本人の意志を尊重し、それぞれの過ごし方をして頂く様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がモニタリングをし、ケアマネ、担当者、管理者、本人、家族等で話し合う場を設け、介護計画を作成している。	日報や、本人、家族の意向を基に全職員で毎月モニタリングをしている。必要に応じ医師や看護師、リハビリ士の意見を反映している。状態の変化や退院後は、直ちに介護計画を見直し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日日報を書き、その時々の変化等も分かる様にし、朝夕の申し送り時に職員間で情報を共有し、話し合いをして実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるために家族の意向やニーズに対応している。訪問看護、歯科、リハビリ等を続けられる様対応している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	タイルの盛んな土地であり、タイルの仕事をされていた方が多い為、地域からタイルを頂き、その方が出来るならと協力をして頂いたり、使用されなくなったシャツやタオル等を頂いて、切ったりして、ホーム内の仕事として行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談時に説明をし、現在かかりつけ医のまま続けられる方もみえ、ホームの主治医に変更される方も居られる。	かかりつけ医は本人、家族の希望にあわせている。受診は家族同行としている、状態はメモや口頭で知らせ受診結果は口頭で聞いている。協力医の訪問時や訪問看護師には利用者の様子を知らせ指示を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員全員が、日常の情報、気づきを話し合い、訪問看護師が入る時は看護師からのアドバイス等を頂いている。又、主治医も相談には気軽に対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まずは主治医との連絡にて入院になる場合が多く、入院先の看護師、相談員と施設で情報交換の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に説明をし、今後の事を話し合う。主治医からも家族の方に電話にてどうするのかを説明してもらっている。その時々で終末期の在り方について家族と話し合いをする様にしている。	契約時に看取りをしない方針を説明している。利用者の状態の変化は医師から家族に説明をしている。家族の強い希望で、医師、訪問看護師の指導を受けながら、安心のケアに取り組み看取った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の救命救急の訓練を行い、全ての職員が実践力を身に付けている。また、スキルアップ研修においても勉強を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害時の避難については、避難経路は決めてある。地域の方の協力をお願いする書類を交わしたり、災害対策委員を職員代表として決め、全職員が協力する体制である。	夜間想定を含めた避難訓練をしている。ホーム裏の川の増水災害の想定避難もしている。地域住民の避難所となっており、備蓄もある。消防署の指導で対策委員を決め図面上の避難訓練を行っている。	

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安易に声掛けしたことが尊厳、プライバシーを損ねる場合もあるので、常に注意を払い、一人ひとりの性格も考慮した上で対応している。	利用者の自由を妨げないよう、特に言葉使いに気をつけている。管理者は声のトーンに気をつけるよう注意している。身だしなみも利用者の好みの服等優先している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望に沿うように心掛けている。自分で決定できない出来ないような時は、二者選択位で聞いてみる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することなく、一人ひとりのペースを大切に、ホールで音楽を聴いたり、自室で日記を書いたり、昼寝をしたりと自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選択できる方は自由に何度も着替えられている方もあり、出来ない方は職員が用意するが、その中でも「これは嫌」と言われる時には好きな物を用意する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の物、好み、彩りよく盛り付けるなど工夫している。また、食器拭き、テーブル拭き等、後片付けを手伝って頂いている。	利用者と一緒に食事をつくり、職員もテーブルを共にしている。朝食にパンの希望も合わせている。頂き物でサツマイモきんとんや、干し柿等を作っている。楽しみとなるよう、誕生会の食事、おやつづくり等を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に応じて行っている。普通、刻み、粥、おにぎり等、それぞれに合った食事形体にしている。水分は特に注意し飲んで頂く様にしているが、それでも飲めない方には別の飲み物等で水分を摂って頂く様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後とは言えませんが、朝夕自分で出来る方は自分でいき、出来ない方は職員の誘導にて行って頂いている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便は朝決まった時間にトイレ誘導、排尿は時間を見計らって誘導。その方に合わせてリハビリパンツ、パット等の使用をしている。夜間はポータブルトイレを使用される方もある。	トイレでの排泄ができるよう誘導や声かけをしている。昼間はリハビリパンツで過ごし、リハビリパンツから布パンツに自立できた人もある。立位が保てるよう歩行リハビリに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物の工夫はもちろん、水分補給、運動を行って頂いている。個々に便秘薬を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調、気分を考えて入浴して頂きますが、拒む方も有り、職員の声掛けや対応に工夫し、チームプレーで入浴を支援している。	毎日入浴したい人や、入浴の順番等の希望には沿うようにしている。「今日は〇〇温泉に行きましょう」各地の温泉入浴剤を揃え楽しみとなる工夫をしている。柚子湯、菖蒲湯等にして昔話を聞くこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその時々で自由に休息し過ごす方、夜間は安心して眠られるよう照明、温度等工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用する薬について理解し、誤薬服用の無いように確認しあって、症状の変化においても注意し気づきを早く職員間で話し合う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり畳んだり、役割をして頂いている。嗜好品においては、おやつにコーヒー等を提供し楽しんでもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の折々にドライブしたり、喫茶店に行ったり、外泊されたりと楽しんでいたことが、今年はコロナ禍により出掛けられない状況である。	近所の神社に初詣や、季節の花見のドライブ等で外出していたが、コロナ禍で中止している。ユニットごとに中庭でお茶をする等、気分転換をしている。おしゃべりしながら、古新聞を利用し「エコ袋」を一緒に作りゴミ箱に利用している。	

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し管理できる方は所持して頂き、管理できない方は事務所にて預かり、必要に応じて使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で作成した季節の作品を飾ったり、職員が玄関に生花を活けたりして季節感を取り入れている。	玄関に干支の共同作品を飾り、季節の花を活けている。くつろぎやすく、ソファ、長椅子、椅子を、大広間や廊下に配置している。室温、換気等感染予防に注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ席、廊下の長椅子等で常に自由に行動しくつろげる様工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたもの、思い出の写真など部屋に飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室入り口に手づくりの作品を飾っている。好みのカーテンにしたり、窓に日よけの障子をはめたりしている。ハンガーラックに着替えの衣服を揃え、ふとんをたたんで、本人の落ち着ける場としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に出来る事、洗濯物を干す畳む、テーブル拭き、床のモップ掛け等やトイレで立つために脚力のリハビリ、トイレまで自力で歩いて頂く等、できるだけ長く自立した生活が送れる様努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index_php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2171900067-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和2年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に引継ぎ、ミーティング等で理念を唱和し、理念の意味についても話し合い、理念を理解し共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グリーンカフェを開催し、地域の方々と今まで以上に交流が日常的なものにできるのではないかと始めた。しかしコロナウイルス感染症の為、現在は中止しているが、落ち着けば再開したい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症には色々な形の症状がある事を、地域の方々にも知って頂きたく「グリーンカフェ」を通して認知症をより理解して頂ける様行っている。現在は野菜や不用になった衣類、タオル等の回収を呼びかけ、又草刈り等も支援して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近ではコロナウイルス感染症について、災害時について等の話し合い、時に役員の方々よりご意見を頂き、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者、包括センターの方々により、運営推進会議においても率直な厳しい意見交換もあり、協力関係を築くよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない事が一番良いことは誰もが承知しているが、利用者様の生命にかかわる危険性があれば、身体拘束も必要である。ご家族から同意書を頂き「身体拘束廃止検討委員会」を作り、運営推進会議において毎回説明をし、少しでも拘束しない時間を多く作って、最終には外す事が出来る様取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スキルアップ研修を受け、職員全員が理解し、お互いに見過ごすことなくチェックし防止に努めている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を使用されていた方があり、シンポジウムなどに参加し、学ぶ機会も有り、それらを活用し支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明をし、家族、利用者の納得を得る様にしている。不安、疑問点は、いつでも電話でも聞いて頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見、要望を受け入れる体制であり、信頼関係を築き、それらを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話しやすい環境にあり、その都度意見や提案が出来る状況である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況等は把握している。職員の意見などは聞き、出来る限り沿えるように努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ研修は、職員全員受けている。外の研修も受ける機会を設けている。(現在コロナウイルス感染症により見合わせている)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は出来れば機会を作りたいと思うが、なかなか実現できない状況である。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴を知り、職員は話題を多く持ち、その人の不安、要望に耳を傾け、安心できる様に信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めに家族が困っている事等をしっかり聞き、要望等はケアプラン作りに同席して頂き話し合いをし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームだけのサービスはもちろん、他のサービスが必要であれば家族様、主治医、ホーム等で話し合い、その時に必要なサービスを利用する様に行っている。現在は訪問看護を受けている方有り。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線でその方の気持ちに寄り添い、昔話をしたり、世間話をしたり、冗談を言ったりと会話をする事にて関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院、外泊など家族の要望に応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	喫茶店や美容院、時には牧師をされていた方(先生)を尋ねて来られお祈りをされる方もあり、関係が途切れない様に努めている。現在はコロナの為出来ていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が利用者の世話をする。気の合う方を1つのテーブルにする等に努めているが、片方が良ければ片方が悪いと言う事も出てくる。あとは職員が間に入り上手に取り持っている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が他の施設等におみえになれば続けることは出来るが、そうでなければなかなか続けることは難しい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らし方に努めているが、他の方との調和も必要かと思う。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から聞き取ったり、本人から昔の話を聞いたりして把握に努めているが、個人情報等の事も有り、どこまで立ち入ってよいのか問題もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その時一人ひとりの心身状態に応じ、本人の意志を尊重し、それぞれの過ごし方をして頂く様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がモニタリングをし、ケアマネ、担当者、管理者、本人、家族等で話し合う場を設け、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日日報を書き、その時々の変化等も分かる様にし、朝夕の申し送り時に職員間で情報を共有し、話し合いをして実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるために家族の意向やニーズに対応している。訪問看護、歯科、リハビリ等を続けられる様対応している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	タイルの盛んな土地であり、タイルの仕事をされていた方が多い為、地域からタイルを頂き、その方が出来るならと協力をして頂いたり、使用されなくなったシャツやタオル等を頂いて、切ったりして、ホーム内の仕事として行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談時に説明をし、現在かかりつけ医のまま続けられる方もみえ、ホームの主治医に変更される方も居られる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員全員が、日常の情報、気づきを話し合い、訪問看護師が入る時は看護師からのアドバイス等を頂いている。又、主治医も相談には気軽に対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まずは主治医との連絡にて入院になる場合が多く、入院先の看護師、相談員と施設で情報交換の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に説明をし、今後の事を話し合う。主治医からも家族の方に電話にてどうするのかを説明してもらっている。その時々で終末期の在り方について家族と話し合いをする様にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の救命救急の訓練を行い、全ての職員が実践力を身に付けている。また、スキルアップ研修においても勉強を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害時の避難については、避難経路は決めてある。地域の方の協力をお願いする書類を交わしたり、災害対策委員を職員代表として決め、全職員が協力する体制である。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安易に声掛けしたことが尊厳、プライバシーを損ねる場合もあるので、常に注意を図り、一人ひとりの性格も考慮した上で対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望に沿うように心掛けている。自分で決定できない出来ないような時は、二者選択位で聞いてみる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することなく、一人ひとりのペースを大切に、ホールで音楽を聴いたり、自室で日記を書いたり、昼寝をしたりと自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選択できる方は自由に何度も着替えられている方もあり、出来ない方は職員が用意するが、その中でも「これは嫌」と言われる時には好きな物を用意する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の物、好み、彩りよく盛り付けるなど工夫している。また、食器拭き、テーブル拭き等、後片付けを手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に応じて行っている。普通、刻み、粥、おにぎり等、それぞれに合った食事形体にしている。水分は特に注意し飲んで頂く様にしているが、それでも飲めない方には別の飲み物等で水分を摂って頂く様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後とは言えませんが、朝夕自分で出来る方は自分でいき、出来ない方は職員の誘導にて行って頂いている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便は朝決まった時間にトイレ誘導、排尿は時間を見計らって誘導。その方に合わせてリハビリパンツ、パット等の使用をしている。夜間はポータブルトイレを使用される方もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物の工夫はもちろん、水分補給、運動を行って頂いている。個々に便秘薬を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調、気分を考えて入浴して頂きますが、拒む方も有り、職員の声掛けや対応に工夫し、チームプレーで入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその時々で自由に休息し過ごす方、夜間は安心して眠られるよう照明、温度等工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用する薬について理解し、誤薬服用の無いように確認しあって、症状の変化においても注意し気づきを早く職員間で話し合う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり畳んだり、役割をして頂いている。嗜好品においては、おやつにコーヒー等を提供し楽しんでもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の折々にドライブしたり、喫茶店に行ったり、外泊されたりと楽しんでいたことが、今年はコロナ禍により出掛けられない状況である。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望し管理できる方は所持して頂き、管理できない方は事務所にて預かり、必要に応じて使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で作成した季節の作品を飾ったり、職員が玄関に生花を活けたりして季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファー席、廊下の長椅子等で常に自由に行動しつろげる様工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたもの、思い出の写真など部屋に飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に出来る事、洗濯物を干す畳む、テーブル拭き、床のモップ掛け等やトイレで立つために脚力のリハビリ、トイレまで自力で歩いて頂く等、できるだけ長く自立した生活が送れる様努めている。		